

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2010年9月調査結果 —



2010年9月30日

## 業況DIは3カ月ぶりに悪化、先行き懸念も強まる

### <結果のポイント>

- ◇9月の全産業合計の業況DIは▲40.8(前月比▲3.1ポイント)と、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。前月比▲3ポイント以上の悪化は、景気の二番底が懸念された2009年12月以来。業況は、6月以降、持ち直しの動きに陰りが出ていたが、9月に入り停滞感が一層強まっている。景気回復の自律性が弱まる中、競争激化に伴う低価格での受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、収益確保は難しい状況が続いている。
- ◇業種別では、建設業を除くすべての業種でマイナス幅が拡大した。特に、製造業は、輸出関連企業を中心に、円高の影響で輸出や受注が減少したため、1年ぶりにマイナス幅が拡大、前月比▲6ポイントの大幅な悪化となった。また、9月中旬まで続いた猛暑により、小売業やサービス業は、飲料品やエアコンなど夏物商品の売上が依然好調だったものの、暑さによる来客数の減少や秋物商品の売上不振などの悪影響を受けた企業も多かった。
- ◇項目別では、円高による一部原材料価格の下落といったプラス要因がみられた仕入単価DIは、マイナス幅が縮小したものの、2010年1月以降、改善が続いていた売上DI、採算DI、資金繰りDIが、いずれも9カ月ぶりに悪化。また、従業員の過剰感も強まるなど、景気の停滞感が拡大し、年末にかけて、経営の悪化が懸念される。
- ◇先行きについては、▲39.0(前月比▲1.8ポイント)と、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。公共工事の減少、低価格での受注競争の激化、エコカー補助金終了による自動車生産の落ち込みに加え、円高の悪影響や消費の低迷など、先行きへの懸念を訴える声がかかり多い。

### 調査要領

○調査期間 2010年9月15日～22日

○調査対象 全国の408商工会議所が2678業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業:394 製造業:637 卸売業:244 小売業:747 サービス業:656

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として直面する問題等

#### ※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算:(好転) - (悪化)      売上:(増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

## ＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、業況D Iのマイナス幅は、建設業を除くすべての業種で拡大した。特に、製造業は、前月比▲6ポイントと、米国金融危機の影響による2008年11月以来の大幅な悪化となった。

「円高による企業経営への影響」については、「悪影響が出ている」との声が2割にのぼり、特に、輸出や受注の減少が多い製造業で、3割以上に達している。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ マイナス幅縮小 ↓ マイナス幅拡大

### 【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	⇒	↑	↓	↑	⇒

- ・「公共事業・民間投資とも減少が続いているうえ、借入金の金利負担が増加しており、経営状況は厳しい」（建築工事業）
- ・「仕事があっても、工期が短く、収益に結びつかない」（塗装工事業）
- ・「競争激化によって、受注額の価格破壊が起きている」（電気工事業）

### 【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↑	⇒

- ・「大手企業の海外生産移転に伴い受注が減少し、経営状況が非常に厳しい」（通信機械器具製造業）
- ・「生産量は回復基調にあるが、先行き不透明感が根強く、設備投資や雇用の拡大には慎重にならざるをえない」（自動車・同附属品製造業）
- ・「円高の影響で親会社が海外進出を考えているため、今後、仕事の依頼がなくなる見通しで、先行きが不安」（建設・鉱山機械製造業）

### 【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	⇒	↑	↓	↓	↓

- ・「猛暑が続いたため、秋・冬物衣料の在庫が積み上がっている」（各種商品卸売業）
- ・「県外資本の大手スーパーの進出により価格競争が激化し、採算が大幅に悪化」（各種商品卸売業）
- ・「株安等の先行き不安に伴う消費者の購買意欲の低迷により、特に高額商品の販売が不調」（衣服・日用品卸売業）

### 【小売業】

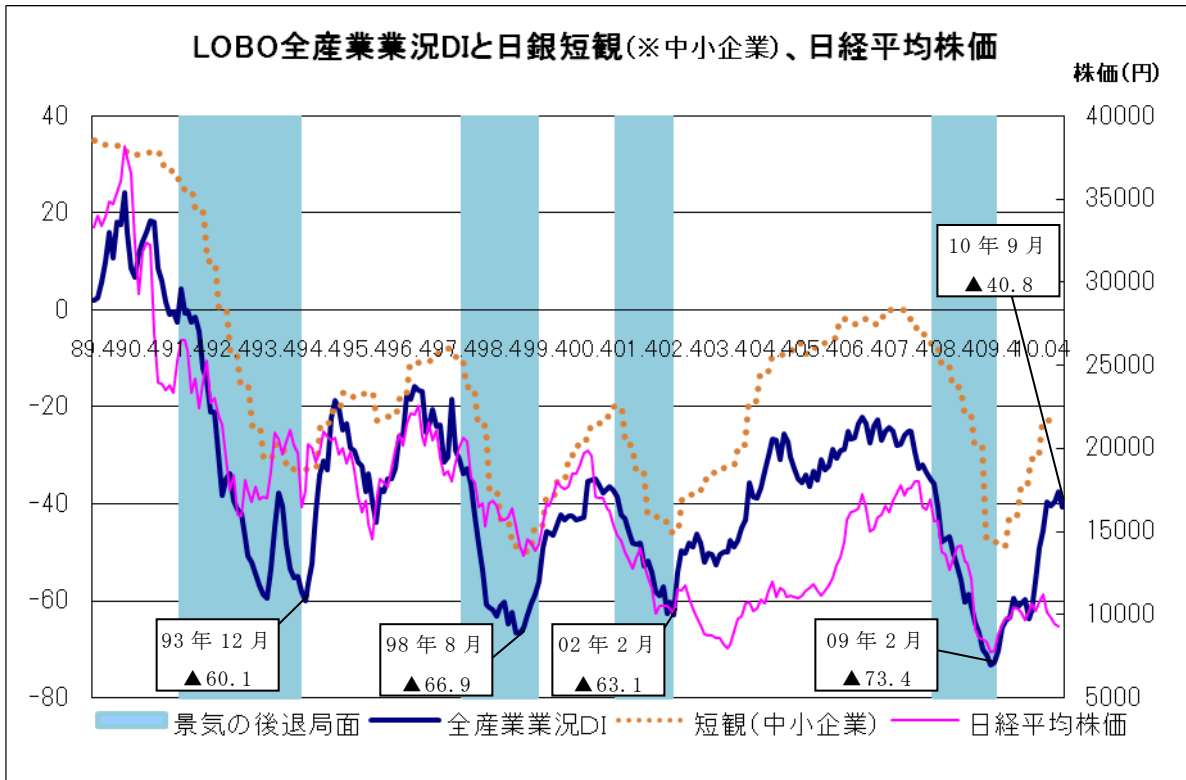
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↑	↓

- ・「消費者の低価格志向が強く、利幅の少ない商品の売上比率が高まっている」（百貨店）
- ・「残暑が厳しく、秋物商品の売上が低調」（百貨店）
- ・「消費者の財布のひもが固く、1円でも安い店に流れるため、値下げ競争が激化」（商店街）

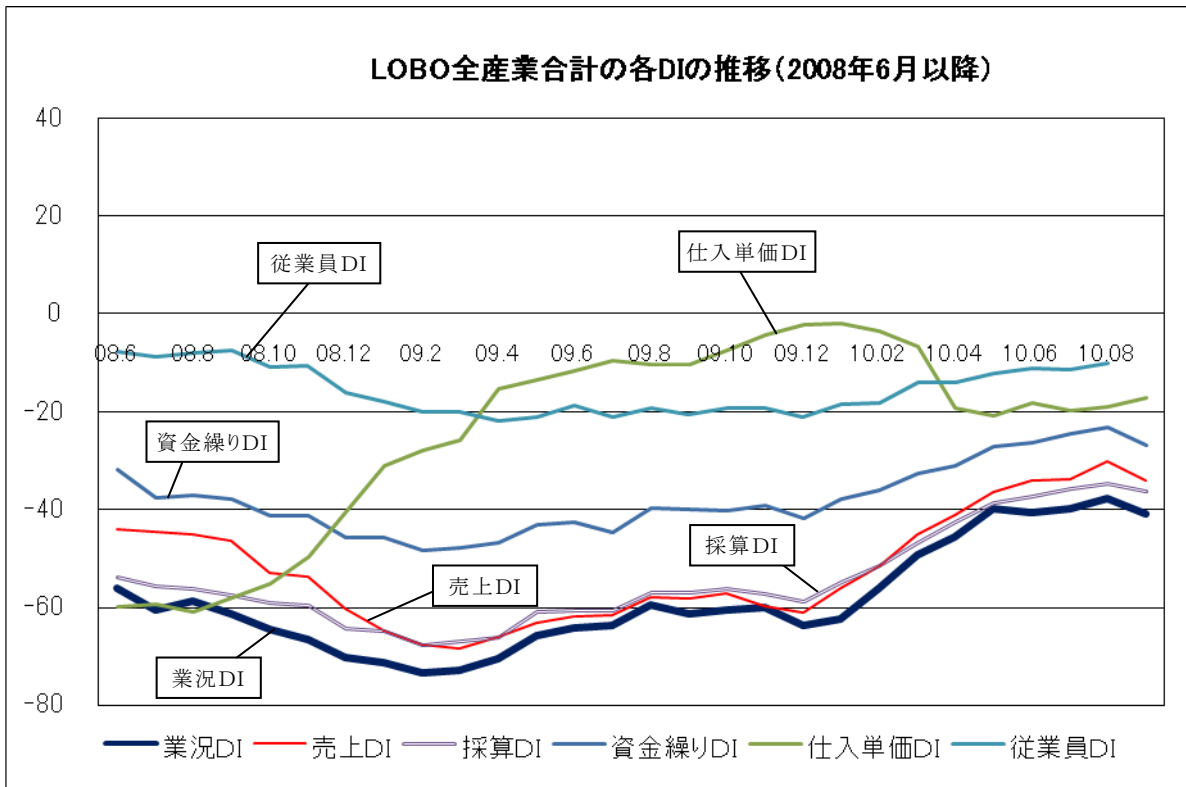
### 【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	⇒	↑	↓

- ・「エコカー補助金終了により、自動車関連企業からの受注が減少する見通し」（運送業）
- ・「野菜や魚の仕入単価が高騰し、採算を圧迫。従業員も過剰気味で、年末までの見通しは厳しい」（食堂、レストラン）
- ・「宿泊者数は前年並みだが、宿泊単価が下がっているため、売上は減少」（旅館）



※短観 (中小企業)：資本金2千万円以上の企業が調査対象



### 【業況についての判断】

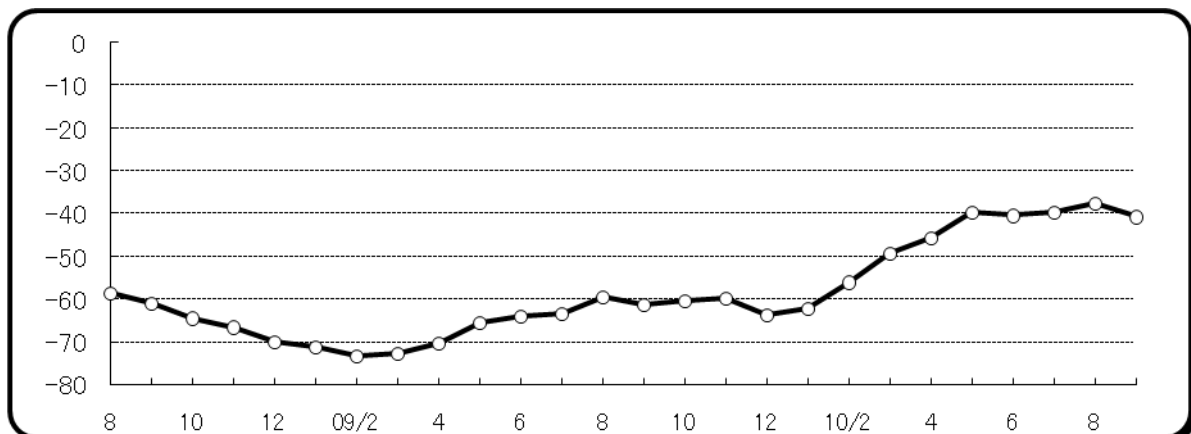
- 9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲40.8（前月比-3.1ポイント）と、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。特に、円高による製造業を中心とした輸出の減少や、猛暑による秋物商品の売上の低迷等が影響した。
- 産業別にみると、一部地方自治体の公共事業の発注があった建設業はマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲39.0と、前月（▲37.2）と比べ▲1.8ポイントとなり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業はマイナス幅が縮小、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種は拡大した。

### 業況DI(前年同月比)の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲45.7	▲39.7	▲40.5	▲39.7	▲37.7	▲40.8	▲39.0 (▲37.2/▲46.4)
建設	▲59.6	▲55.3	▲58.1	▲58.0	▲56.1	▲54.4	▲47.0 (▲52.1/▲49.8)
製造	▲30.6	▲25.4	▲25.1	▲20.6	▲20.0	▲26.0	▲32.9 (▲31.9/▲40.7)
卸売	▲48.5	▲34.6	▲37.0	▲33.3	▲35.4	▲36.4	▲35.0 (▲24.8/▲41.9)
小売	▲50.9	▲46.0	▲41.8	▲46.9	▲43.9	▲46.1	▲41.1 (▲36.1/▲50.1)
サービス	▲45.5	▲39.5	▲45.1	▲41.6	▲38.8	▲42.9	▲39.2 (▲39.3/▲47.8)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
 ( ) 内左側(網かけ)は前月(8月)の先行き見通しDI  
 ( ) 内右側は昨年9月の先行き見通しDI

### 《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

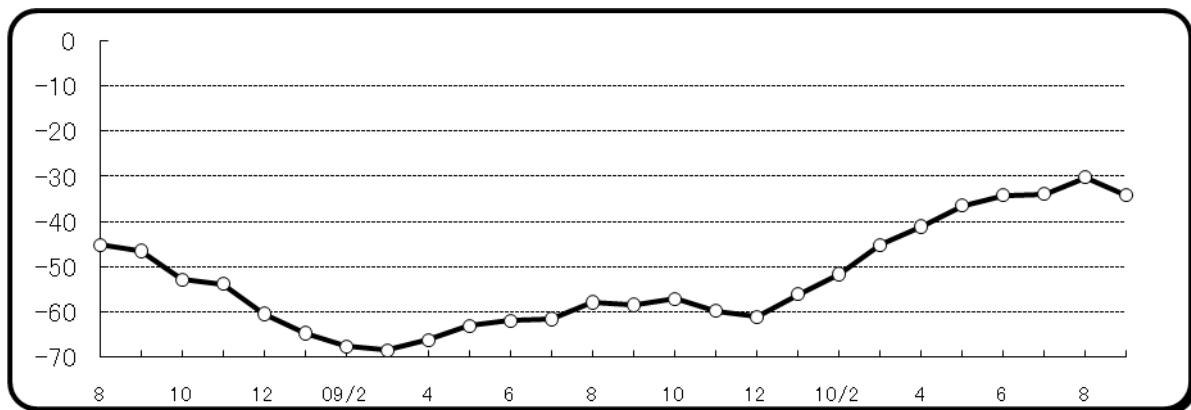
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲34.1（前月比-3.9ポイント）と、9カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。産業別にみると、建設業と卸売業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種はマイナス幅が拡大した。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）は▲32.5と、前月（▲32.9）からほぼ横ばいで推移した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業でマイナス幅が拡大、卸売業、小売業、サービス業は横ばいとなったものの、製造業は縮小した。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲41.1	▲36.4	▲34.1	▲33.9	▲30.2	▲34.1	▲32.5 (▲32.9/▲40.8)
建設	▲59.5	▲51.1	▲47.7	▲51.3	▲47.7	▲47.7	▲40.9 (▲36.9/▲42.7)
製造	▲20.0	▲17.0	▲14.6	▲8.3	▲11.3	▲13.3	▲25.6 (▲28.8/▲33.4)
卸売	▲45.5	▲41.0	▲32.1	▲32.4	▲34.6	▲34.3	▲28.2 (▲28.5/▲34.0)
小売	▲48.9	▲46.9	▲40.5	▲45.4	▲35.4	▲42.2	▲35.8 (▲36.5/▲47.6)
サービス	▲40.4	▲33.2	▲38.8	▲36.2	▲31.7	▲37.3	▲32.1 (▲32.3/▲42.2)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（8月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年9月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

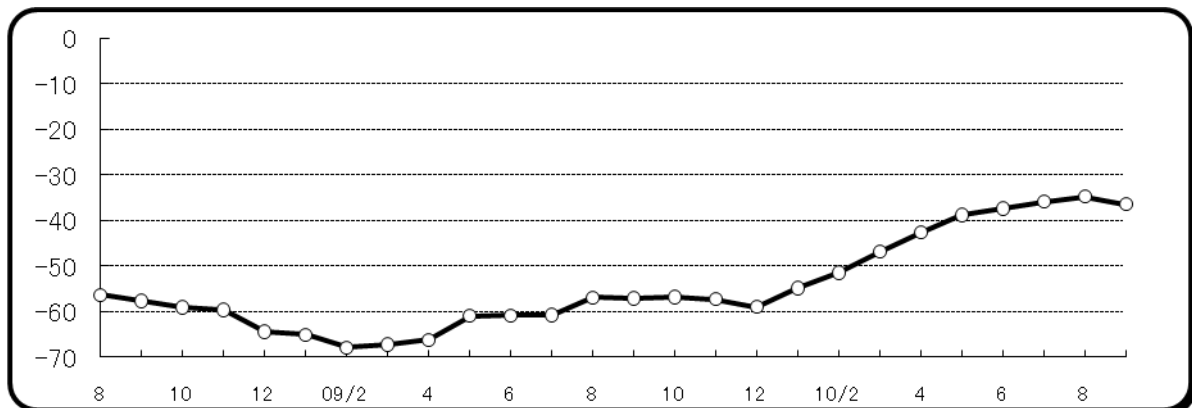
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲36.4（前月比-1.6ポイント）と、9カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。産業別にみると、建設業、卸売業はマイナス幅が縮小したものの、他の3業種は拡大した。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）は▲35.3と、前月（▲33.7）と比べ▲1.6ポイントとなり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業はマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。

採算D I（前年同月比）の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲42.6	▲38.8	▲37.4	▲35.8	▲34.8	▲36.4	▲35.3 (▲33.7/▲43.2)
建設	▲57.7	▲52.3	▲52.1	▲51.3	▲53.0	▲48.9	▲40.9 (▲45.3/▲44.9)
製造	▲31.9	▲26.4	▲27.1	▲24.4	▲23.1	▲24.7	▲35.8 (▲33.1/▲42.5)
卸売	▲35.1	▲34.3	▲35.8	▲26.5	▲32.3	▲30.1	▲25.2 (▲23.1/▲35.4)
小売	▲48.5	▲45.4	▲35.0	▲37.0	▲35.3	▲37.4	▲34.4 (▲33.0/▲44.3)
サービス	▲39.8	▲37.4	▲42.0	▲39.4	▲36.0	▲41.5	▲36.0 (▲32.0/▲44.8)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（8月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年9月の先行き見通しD I

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲31.1	▲27.1	▲26.4	▲24.6	▲23.2	▲26.8	▲28.4 (▲26.1/▲33.3)
建設	▲40.6	▲39.4	▲39.1	▲38.8	▲35.9	▲41.2	▲39.3 (▲39.0/▲41.3)
製造	▲26.0	▲23.3	▲22.8	▲19.0	▲16.3	▲18.2	▲27.1 (▲24.1/▲36.8)
卸売	▲25.6	▲21.1	▲19.7	▲14.8	▲13.8	▲22.4	▲16.4 (▲13.1/▲26.6)
小売	▲32.8	▲28.5	▲24.1	▲21.3	▲23.1	▲27.5	▲24.9 (▲22.9/▲29.5)
サービス	▲30.3	▲24.1	▲27.2	▲28.1	▲25.9	▲26.8	▲31.0 (▲28.3/▲31.6)

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲26.8となり、マイナス幅は9カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種はマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、マイナス幅は拡大する見通し。産業別にみると、建設業はほぼ横ばいとなる見込みであるものの、他の4業種は拡大する見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲19.4	▲20.9	▲18.3	▲19.7	▲19.1	▲17.2	▲13.9 (▲15.9/▲11.0)
建設	▲26.5	▲31.2	▲32.9	▲27.2	▲26.6	▲21.3	▲19.0 (▲22.3/▲16.0)
製造	▲23.5	▲25.9	▲26.1	▲26.8	▲24.6	▲22.6	▲21.3 (▲23.0/▲15.1)
卸売	▲11.2	▲17.3	▲10.3	▲14.0	▲14.6	▲21.7	▲9.1 (▲6.2/▲2.7)
小売	▲9.8	▲10.0	▲6.0	▲9.3	▲10.2	▲7.3	▲4.2 (▲9.2/▲5.5)
サービス	▲24.7	▲22.8	▲18.3	▲21.1	▲19.8	▲18.1	▲15.9 (▲15.5/▲13.5)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲17.2となり、マイナス幅は2カ月連続で縮小した。産業別にみると、卸売業は、猛暑により、野菜等の価格が高止まりした影響でマイナス幅が拡大した。一方、他の4業種は縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、上昇感は弱まる見通し。産業別にみると、卸売業は上昇感が強まる見込みであるものの、サービス業はほぼ横ばい、他の3業種は弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲14.1	▲12.4	▲11.2	▲11.5	▲10.1	▲11.5	▲10.6 (▲8.9/▲16.2)
建設	▲27.6	▲23.3	▲24.3	▲28.4	▲25.5	▲25.2	▲22.2 (▲21.4/▲26.7)
製造	▲16.7	▲15.5	▲11.5	▲9.1	▲9.9	▲9.2	▲11.1 (▲10.2/▲24.3)
卸売	▲15.0	▲12.8	▲14.7	▲14.8	▲9.3	▲13.4	▲13.3 (▲10.9/▲16.4)
小売	▲9.7	▲9.2	▲5.2	▲5.3	▲5.5	▲7.3	▲5.2 (▲4.7/▲11.2)
サービス	▲7.2	▲5.6	▲8.0	▲8.4	▲5.8	▲8.4	▲6.9 (▲3.4/▲6.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは▲11.5となり、マイナス幅は2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、建設業、製造業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種は過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、過剰感は強まる見通し。産業別にみると、建設業、製造業、小売業はほぼ横ばい、他の2業種は過剰感が強まる見通し。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側(網かけ)は前月(8月)の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年9月の先行き見通しD I



## 【2010年9月の景気キーワード】

### ○円高の悪影響

製造業を中心に、円高によって輸出や受注が減少するなど、企業経営に悪影響が及んでいるとの声が多い。

- ・「売上の98%が海外向けであるため、円高により相当受注が減少する見通し」（草津・自動車・同附属品製造業）
- ・「円高により、ティーポットの輸出が大幅に減少」（奥州・鉄素形材製造業）
- ・「円高の影響で、外国人の宿泊者数が減少」（長野・旅館）

### ○限定的な猛暑効果

9月中旬まで続いた猛暑により、飲料品やエアコンなど夏物商品の売上が好調だった一方、来客数の減少や秋物衣料の売上不振など悪影響を訴える声も多く寄せられた。

- ・「9月に入っても連日のように真夏日が続いたため、衣料品を中心に秋物商品の売上が伸び悩んでいる」（水戸・百貨店）
- ・「猛暑の影響で、商店街への客足が鈍くなり、主力商品である婦人服や雑貨関連の売上が落ち込んでいる」（横浜・商店街）
- ・「猛暑の影響で、収穫が減少した野菜・果物の価格が軒並み値上がりし、仕入価格が例年の2倍以上になっている商品もある」（倉敷・農畜産・水産物卸売業）

### ○エコカー補助金終了による需要減退

エコカー補助金によりこれまで景気を下支えしてきた自動車の生産や販売数の減少を訴える声が多い。

- ・「自動車メーカーが減産計画を打ち出しており、確実に受注が減少する見通し」（佐野・金属加工機械製造業）
- ・「エコカー補助金が打ち切られたことによる、自動車への購入意欲の低下を懸念」（静岡・金属加工機械製造業）
- ・「エコカー補助金が終了した9月8日以降、新車販売が急激に落ち込んでいる」（帯広・自動車整備業）

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
10年4月	仕入価格の上昇への懸念	根強い消費者の低価格志向	依然として厳しい雇用情勢
5月	仕入価格の上昇・高止まりによる影響	根強い消費者の低価格志向	受注・売上に回復の兆し
6月	仕入価格の上昇・高止まりによる影響	価格競争の激化	受注・売上に持ち直しの動き
7月	仕入価格の上昇・高止まりによる影響	価格競争の激化	経済対策の期限切れに対する懸念
8月	急激な円高の悪影響	価格競争の激化	経済対策の期限切れに対する懸念
9月	円高の悪影響	限定的な猛暑効果	エコカー補助金終了による需要減退

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

## 【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東海でマイナス幅が縮小、近畿、九州はほぼ横ばいとなったものの、他の6地域は拡大した。特に、業況が大幅に悪化した東北は、猛暑の影響による農作物の価格高騰や秋物衣料等の売上低迷が顕著であったこと、中国では、自動車を中心とした製造業の業況が悪化したことが影響しているとみられる。
- ブロック別の向こう3カ月（10～12月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、東海、四国でマイナス幅が縮小、中国でほぼ横ばいとなったものの、他の6地域では拡大した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	10年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全 国	▲45.7	▲39.7	▲40.5	▲39.7	▲37.7	▲40.8	▲39.0 (▲37.2/▲46.4)
北 海 道	▲44.0	▲38.1	▲45.2	▲37.5	▲38.4	▲45.8	▲35.8 (▲27.4/▲45.6)
東 北	▲44.2	▲39.4	▲30.0	▲34.9	▲31.8	▲42.5	▲40.2 (▲37.3/▲47.3)
北陸信越	▲46.7	▲43.6	▲42.3	▲41.7	▲35.4	▲39.0	▲37.9 (▲34.1/▲48.3)
関 東	▲42.8	▲32.1	▲33.8	▲33.2	▲34.4	▲36.6	▲38.6 (▲37.1/▲45.9)
東 海	▲46.2	▲42.8	▲41.5	▲38.3	▲38.3	▲36.5	▲39.7 (▲42.8/▲46.1)
近 畿	▲48.1	▲41.4	▲41.5	▲36.2	▲42.1	▲41.8	▲37.3 (▲31.7/▲49.5)
中 国	▲53.6	▲49.1	▲50.5	▲48.9	▲35.8	▲46.5	▲45.5 (▲45.7/▲47.5)
四 国	▲41.5	▲33.3	▲41.1	▲41.4	▲40.3	▲42.1	▲32.5 (▲38.8/▲32.0)
九 州	▲48.9	▲49.7	▲51.4	▲58.9	▲46.8	▲47.3	▲44.6 (▲41.1/▲52.6)

- ※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（8月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年9月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高により、海外から農業機械を安く調達できるようになったため、国内製品は価格競争で苦戦している（農業用機械製造業）</li> <li>・水温上昇による漁獲量の減少に伴い、主要な水産加工原料の価格が軒並み高騰し、採算が取れない状況（水産食料品製造業）</li> <li>・尖閣諸島問題による中国からの観光ツアー中止の拡大を懸念（旅館）</li> </ul>
東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業況および資金繰りは現在好調であるが、受注の増加に伴い、発注先からコストダウンの要求が高まっており、先行きは不透明（電子部品製造業）</li> <li>・残暑が続き、秋物商品の売上が低迷（百貨店）</li> <li>・円高の影響で大手が格安のアルコール飲料を販売するなど、価格競争が激化し、収益確保が困難（その他の小売業）</li> </ul>
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフォームに多少持ち直しの動きがみられるが、新築物件は相変わらず低調（一般土木建築工事業）</li> <li>・受注は増加しているものの、受注単価の引下げ要求が強く、売上が伸び悩んでいる（その他の金属製品製造業）</li> <li>・輸出が好調な新興国向けの生産が急増しているが、今後の見通しは不透明で、正社員を増やすまでには至っていない（金属加工機械製造業）</li> </ul>
関東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共・民間工事とも減少しており、低価格での受注競争が激化（一般土木建築工事業）</li> <li>・原材料のワサビは、中国からドル建てで輸入しており、円高の影響は大きい（調味料製造業）</li> <li>・仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できず、我慢の経営が続いている（その他の一般飲食店）</li> </ul>
東海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注案件が小ロットかつ短納期であるため、受注の増加に見合う収益が得られない（陶磁器・同関連製品製造業）</li> <li>・中国向けの鉄鋼の輸出が減少しているため、鉄鋼への依存度が大きい石灰出荷も今後減少に転じる見通し（その他の窯業・土石製品製造業）</li> <li>・株価低迷による個人消費の冷え込みで、売上が落ち込んでいる（家具・建具・じゅう器等卸売業）</li> </ul>
近畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高により、大企業からの受注が減少（一般産業用機械・装置製造業）</li> <li>・残暑の影響により、秋物衣料の販売で大苦戦を強いられている（百貨店）</li> <li>・食材、包装容器等の仕入価格の上昇は、ひとまず収まっているものの、来店客数の減少が続いており、経営状況は厳しい（喫茶店）</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共・民間工事とも受注競争が激しく低価格入札が多いため、収益状況は依然として厳しい（一般土木建築工事業）</li> <li>・受注量は増加傾向にあるが、受注単価が低く、収益確保までには結びつかない（その他の繊維製品製造業）</li> <li>・エコカー補助金の終了や輸出の先行き不透明感から、大口ユーザーである鉄鋼メーカーからの需要が伸び悩んでいる（耐火物製造業）</li> </ul>
四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は大型公共工事の発注がなく、経営状況が更に悪化（一般土木建築工事業）</li> <li>・例年にない異常気象の影響で、食材の仕入れが思うように進まない状況（食料・飲料卸売業）</li> <li>・猛暑の影響で、ビールなど飲料品の売上が増加（その他の一般飲食店）</li> </ul>
九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事の大幅な減少や民間工事の競争激化によるダンピング受注等で、収益が悪化（一般土木建築工事業）</li> <li>・円高により、取引先である発電プラントや製鉄機械会社等が海外での受注競争に敗れ、仕事不足に陥っている（産業用電気機械器具製造業）</li> <li>・異常気象による野菜価格の高騰が年末まで影響する見通しだが、値上げは困難（食堂、レストラン）</li> </ul>